

【スローガン】

『想像力は無限大』 さあ、未来をひらく冒険にでかけよう！！

【主旨文】

私たち大人は知っています。心が豊かであることの大切さを。そしてそれは、ときおり自然、音楽、芸術、文学に触れて感性を磨き、人との触れあいや繋がりの中で徳を積み、未知の世界を知り感動する経験を重ね、そして自ら想像力を育むことによって養われるものではないでしょうか。未来を担う子どもたちが暮らす現代では、あらゆる情報やモノが身近に溢れ、一見して世の中は便利で豊かになり、彼らの将来もまた無限の可能性に満ちていると実感できます。一方、地縁的な繋がりや人間関係が希薄になり、心の貧しさが懸念される時代でもあります。ややもすると効率偏重とも思える社会風潮の中で、今の子どもたちは「想像力」が乏しくなっていく傾向にあるのかもしれませんが。私たちは親世代の責任として、次代を生きる彼らに情操教育の機会を提供し、学校や家庭との相乗効果により彼らの想像力を育むことで、生きる力の本質を伝えていく必要があるのではないのでしょうか。

今年で26船目を数える「2017はままつ少年の船」では、子どもたちがこれから社会に出て逞しく生きていくための糧となる「想像力」をテーマに、情操的な学びの場を創出していきます。想像力を育む一番の近道は、見知らぬ人たちと触れあい、知らない世界に出会い感動する経験を積むことに他なりません。につぼん丸はたくさんの仲間を乗せて、遙かかなた伊豆諸島最南端の秘境の地を目指し出港します。親元を離れ、期待に胸膨らませる冒険の旅の始まりです。船内研修では、チームで協力しながら果敢に挑戦し、一つのことを成し遂げていく過程で、自分の考えを主体的に発信し、素直に表現していく力を養っていきます(自分に対する想像力)。普段知り合うことのできない地域や学年も異なる団員や大人たちとの2泊3日の洋上生活を通して、他人の意見を受け入れ相手を認め助け合う、優しさや思いやりの心を育てていきます(他人に対する想像力)。また日常では到底思いも及ばない見渡す限りの大海原や満天に輝く無数の星は、自然が持つ無限の可能性を教えてくれ、それらは団員の好奇心を存分に掻き立てる手助けとなり、何事にもなぜ？ どうして？ と疑問を抱き、興味を持って探究していく力を養っていきます(未知に対する想像力)。そして時にはチームリーダーの助けに頼りながらも、仲間との絆の大切さ、周りの支えへの気づきとそれに感謝する心の尊さを学び、成長していきます。やがて幾多の波を乗り越え、絶海の大海原にそびえる「ソウフ岩」を目にすることができたとき、その勇壮かつ孤高な姿から誰もが自然の雄大さに圧倒され大きな感動を覚えることでしょう。その感動は船上で得た経験と共に、彼らの胸に一生の思い出として刻まれ、そしてその思い出は、自信となって彼らの生きる力となります。

3日間の船旅を終えた子どもたちは、自分の意思に基づいて行動する力を養い、相手の気持ちに立って考える思いやりを持ち、未知への探究心を兼ね備え、一回りも二回りも逞しくなって帰ってきます。そして彼らはこの先、社会というさらなる大海原へと勇気を持って漕ぎ出していきます。経験こそが推進力です。多情多感な時期に、初めて出会う仲間との非日常体験や、未知の世界と出会う感動体験を経て、想像力を育み、心豊かに成長した子どもたちは、その先の人生においてもあらゆる困難を臨機応変に解決し、自らの力で未来を切り拓いていくことができると確信しています。